

人・街・ながた 震災資料室ニュース

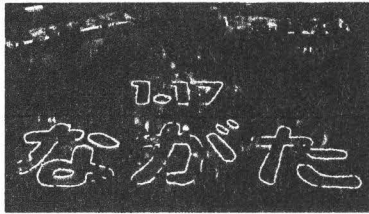
2009. 1. 17

発行人 寿 広文

編集人 武川泰恵・藤原美紀

「1.17」語りつぐ大切さ

震災で犠牲になられた人の鎮魂と、まちの復興への願いをこめ、各地域でさまざまな取り組みがあった。人と人が支えあった記憶を風化させず後世に語り継いでいく大切さを確認しよう。



1.17 区内各地域の催し ()内は主催団体
人・街・ながた震災資料室展(人・街・ながた震災資料室展・リメンバー神戸プロジェクト)、NAGATAゴスペルコンサート(長田区役所)、「希望の灯り」・長田一御蔵北公園(御蔵5・6・7丁目自治会)、フレールアスタ若松(「大若」神戸の壁跡1.17の集い実行委員会)、若松鷹取公園(旭若松連合会・若松ふれあいのまちづくり協議会・長楽北部地区民生委員協議会)、本町筋商店街(本町筋商店街連合会)南尻池公園(真野地区1.17「希望の灯り」実行委員会)、市営番町住宅26号棟前(三番町4丁目自治会)、新長田駅前広場(1.17KOBEに灯りをinながた実行委員会)



パネルの貸し出しをしました

●阪神淡路大震災14年メモリアル集会
寄贈いただきました

●リメンバー神戸プロジェクト、三原泰治さんより

「長島義明写真集」

●月刊「まち・コミ」

●「拓人」(きり拓くひととびと)

●NHK大阪放送局・新井雅樹さんより

DVD「阪神淡路大震災 秘められた決断」

●「ゆめごよみ 風だより」

●「じゃりみち」

●「えんぴつの家だより」

ありがとうございました

長野県聞き取り調査報告⑤

松本市 県中央部からやや西にあり、県内で最も広い面積を持つ。国宝松本城がある旧城下町で、歴史的建造物も多い。穂高岳・槍ヶ岳・上高地がある。また、市はフォッサマグナの上にあり、西部には糸魚川静岡構造線が通り、牛伏寺断層が通っている。

西村裕之さんは、第一グループ2月5日～10日で支援活動に参加された。市に採用され2年目、松本城管理事務所で勤務していた。庭木の剪定・城内の見廻り・売店業務・藻を掬う等何でも管理事務所でやる。

「テレビを見て何かをしたいと思い、自治労の要請に応えた。介護福祉士の勉強をしていたので役立てたいとの思いがあった。陸路だった。行けるところまで電車で、後は徒歩で直接真陽小学校に行った。避難所は混乱していた。」

水が出ておらず、自衛隊から給水・物資の搬入・配給が主な業務で、数の過多・過少があっても、とにかく配った。皆、とにかく考える間も無く動いていた。物資は野積み状態で、勝手に持っていく人もいて、職員室の机下で寝て、地元の人達と夜間の見廻りをした。仮設トイレは長蛇の列で、掃除が行き届かず大変な状態だった。子供たちが人懐こくて一緒に遊んだが、どこかに不安があり、それを紛らしているようにも感じた。「ボランティアは復興のための手助け、のめりこんでしまっただけは、支援の受入れ側にとってよくない。」

一番印象に残ったのは『おおきに』、関西の感謝の言葉だ。感謝の言葉が出るまでにどれだけの苦労があったのか、と思ったそう。

西村さんは、穏やかに大切なものを手渡すように話された。

長時間にわたり、ありがとうございました。

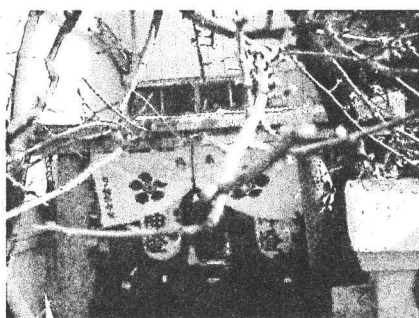
(武川泰恵)

梅ヶ香町、「匂いの梅」が春を待つ

4回の国勢調査を比較して 22

	1965 年	1975 年	1985 年	1990 年	1995 年	2000 年	2005 年	05 90
世帯数	703	595	501	463	308	324	318	0.69
人口	2,742	1,995	1,423	1,174	757	722	693	0.59
男	1,340	936	656	522	362	353	324	0.62
女	1,402	1,059	767	652	395	369	369	0.57
区人口	214,345	185,974	148,590	136,884	96,807	105,464	103,771	0.76

梅ヶ香町はＪＲ神戸線のすぐ南側にあって東側は兵庫運河を挟んで隣は兵庫



区である。2丁からなる町で、05年国勢調査で318世帯693人の小さな町である。

地区には病院もあるが、歴史のある増田製粉所や国道2号線以南には神戸機械センターやメッキセンター等の鉄工団地もある住工商地区である。震災前の状況は住居のほとんどは木造で明治後期から大正時代に建てられたものだ。

(いわゆる長田区が林田区と言われていて爆発的に人口が増えていた頃)

人口動態表を見てみると減少傾向が引き続いているのがわかる。ちょうど日本が高度成長時代、梅ヶ香町は10年毎に3割近い減少を続けており、区平均より高い数値を示している。震災で757人になったが、05年も5%減で722人になっている。因みに罹災率は575棟のうち全壊率37.6%であり、火災被害も一部出ている。

ところで梅ヶ香町の町名の由来について見てよう。「神戸の町名」(神戸新聞社)によると「菅原道真が筑紫へ左遷される途中、和田御崎に船を停め、かぐわしい梅の香りにひかれてやってきた、という伝説にもとづく」とある。菅公ゆかりの「匂いの梅」は隣町の東尻池郷土館の東向いに祀られている。石碑にはその時詠んだ『句能梅 可勢さむ見 雪尔万可へ天 咲花農 袖耳そ移れ 丹保ふ梅可香』(匂いの梅 風寒み雪にまがへて 咲く花の 袖にぞうつれ匂う梅が香)と。

梅の木は小枝を丁寧に剪定されていて小粒の芽が数多くあり、「匂いの梅史跡保存会」の事務局をされている喫茶・八重ちゃんの岩木さんは「今年は木一杯に梅ができるでしょう」と楽しみにされている。

この梅ヶ香町の特徴の一つに梅ヶ香公園がある。街の北西の角から南東に斜めに縦断している。ＪＲ高架も一部張り出しており、和田岬線に継ぐ引き込み線の予定地だったと思われる。公園の国旗掲揚台の跡には、紀元2600年記念と刻まれている。

